

3 研究のまとめ

(1) 成果

本研究において、新中学校学習指導要領や新中学校学習指導要領解説理科編を基に、求められる資質・能力について明らかにすることができました。また、資質・能力の育成に向けた授業の質的改善のために、教師や生徒のアンケートから分析して改善する方法を開発しました。この方法を用いた 2 つの実践事例では、どちらの実践でも事後アンケートから生徒の意識の変容が見られ、ワークシートの記述の質も高まりました。このことから、生徒の資質・能力が徐々に向上していると考えられます。そこで、本研究における授業の質的改善についての方法は、資質・能力の育成に有効に働いたと考えます。

(2) 課題

実践事例において、資質・能力を身に付けさせる上で必要となる学習活動を生徒に活発に行わせることができ、ワークシートにおける生徒の記述の質も向上しましたので、単元終了時には資質・能力が大きく向上したと考えました。しかし、1 か月程度後に該当する資質・能力について定期テスト等で出題をしても、飛躍的な向上は認められませんでした。そこで、学習活動については、1 単元だけではなく、継続的に取り組んでいかなければならないと考えます。また、生徒の実態から育成すべき資質・能力を向上させる学習活動を把握した後、その学習活動の中で主体的・対話的で深い学びをどのような形で実現した方がよいのかについては、さらに検討していく必要があります。このことは 2 年次の研究の課題として研究を進めます。また、今回の実践では探究の過程における「課題の把握」での問題を見いだす活動と「課題の探究」での解決する方法を立案し、その結果を分析・解釈する活動に焦点を当てています。「課題の解決」における探究の過程を振り返る活動についても、本研究が有効に働くかどうかについて、2 年次に検証していきたいと思えます。